

第2回 4月26日の講義内容

- §1. 社会調査とは何か
 - 社会調査とは
 - 調査倫理
 - 社会調査の軸
 - 統計的研究と事例研究
 - 量的調査と質的調査
 - 記述的調査と説明的調査
 - まとめ

4/26/05

1

社会調査とは何か

- 社会調査とは
関心のある社会現象を観察して、第一次資料としてのデータを収集する。そして、それに基づいた解釈を行うこと。
- 社会調査の目的
(経験的)データをもちいて意味世界としての社会的世界を探求し、新しい知見を提示すること。
 - Note: 第一次資料とは

4/26/05

2

学問・科学としての社会調査

- 要請
 - データの質が高い
 - 結果の妥当性、説得性、信頼性
- 満たすべき条件
 - 客観的な基準に立脚した方法の採用
 - 追調査可能

4/26/05

3

調査倫理

- 学問上の倫理
 - 基本的倫理: データの捏造、剽窃、無断引用の禁止
 - 科学的客観性の保持
 - 知的誠実性: 不都合な結果でも隠さない
 - 学術研究の特権性の否定
- 調査特有の倫理
 1. インフォームド・コンセント: 例外・秘匿調査
 2. ハラスメントの回避
 3. コンフィデンシャルティ (秘密保持)

4/26/05

4

社会調査の軸

- 4つの軸

調査対象:	群全体	一部
関心:	対象の平均像	個別像
実現方法:	量的	質的
解釈方法:	分析的	記述的

4/26/05

5

社会調査の主な区分

- 対象による区分
 - 統計的研究: 複数の個体からなる群全体を対象
 - 事例研究: 一つの個体を対象
- 得られるデータのタイプによる区分
 - 量的調査 quantitative research:
数量的データを扱う
 - 質的調査 qualitative research:
非数量的データを扱う

4/26/05

6

統計的研究の特徴

- 統計的分析手法を用いる
- 犯しやすい誤解
 - 経験の一般化(観察言明を普遍言明とする)は「法則定立」ではなく「仮説設定」にすぎない
 - 経験の多さは必ずしも「普遍性」を意味しない
 - 調査項目の選択段階などで「主観性」が入り込む余地が残っている
 - 統計手法の採用 = 「科学的」、という思い込みを生み易い

4/26/05

7

事例研究の特徴

- 分析上の限定性がない
 - さまざまな分析技法を用いることが可能
- 犯しやすい誤解
 - 対象への現象的な「近さ」= 対象の「解明」、という錯覚を生じ易い
 - 事例の「代表性」問題: たとえ「代表性」が欠如していたとしても、理論的問題に対する答えが導出できれば研究としては有意義

4/26/05

8

量的調査

- 調査票(標本)調査 (例) アンケート、世論調査
 - サンプリング + 推測統計 群全体の平均像を推測可能
 - 分析的調査となるためには、何らかの枠組(理論・モデル)が必要
- 事例研究の中における量的データの調査・分析
- 現象を量的データに変換する段階で情報を損失していることに注意

4/26/05

9

量的調査の利点と欠点

- 利点
 1. 定型化しやすいので大標本を扱える
 2. 数値化しやすいので処理が容易
 3. 統計的推論が可能
 4. 追試が可能
- 欠点
 1. 画一化するため、細かく・微妙な内容にはなじまない
 2. 相互に関係する複雑な仕組を捉えるのが苦手
 3. 全体像がつかみにくい
 4. ある時点における静的な関係のみしか扱えない

4/26/05

10

質的調査

- 限定的標本に対する非定形的、複合的内容をもつ調査。
 - 日常的な社会現象の非加工の記述(「日常性」)
- 如何にして被対象者の主観的な情報を引き出し、その社会的意味を調査者が整理し、普遍化するかがポイント。
 - 主観的世界を直接表現した素材(「解釈自己提示性」)
 - 調査自身は研究の素材であって目的ではない
 - 素材の力に頼り過ぎないこと

4/26/05

11

質的調査でよく用いられる技法

- インタビュー調査 interviewing
 - 半構造化ないし非構造化in-depthインタビュー
 - ライフ・ヒストリー研究のナラティブ・インタビュー
- 参与観察 participant observation

どちらの技法も調査後、時間をおかず記述・整理すること
- ドキュメント調査

4/26/05

12

質的調査の利点と欠点

- 利点
 1. 総合的に理解可能
 2. 深層まで追跡可能
 3. 動態を把握可能
- 欠点
 1. 一般化が困難
 2. 検証困難か不能

4/26/05

13

記述的調査と説明的調査

- 記述的調査
 - 社会現象の記述が目的
 - 記述から抽象概念を推論・作成することもある
- 説明的調査
 - 複数の社会現象の記述から、複数の社会現象の関係の因果関係を探ることが目的
 - 抽象概念間の因果関係を探ることが目的でもある

4/26/05

14

まとめ

- どのような調査手法が妥当・適切かは、調査目的によって異なる。
- 問題意識や調査目的・目標を明確にしておくこと!!
- Note:複数の調査手法を組み合わせることで、より明確に全体像を浮かび上がらせるよう、試みている研究者もいる(P.Bourdieu)

4/26/05

15

考えてみよう

- 「OLの職場内での地位・役割」に関する調査
 - 目的:実質的な役割・権力構造を明らかにする
 - 「お茶汲み」か「お局様」か。その実態は?
 - どのような調査手法をとるか
- 参考文献
 - 小笠原祐子(1998)『OLたちのレジスタンス』中公新書
 - 脇坂・富田編(2002)『大卒女性の働き方』日本研究労働機構

4/26/05

16